

教育支援センターだより

実習と実地体験活動とおした学びと成長

教育支援センター特任教員 藤原 里美

2025年度が始まりました。大学ではバラが美しく咲き誇り、キャンパスには学生の皆さんの明るい声が響いています。皆さんは、新しい環境や生活にも、少しずつ慣れてきた頃ではないでしょうか。

今回は、教育支援センターについて紹介します。

教育支援センターは、港町キャンパス 1 階、エントランスホールから食堂へ向かう途中にあります。ここには、小学校、特別支援学校、幼稚園、保育所など、さまざまな教育・保育の現場での経験を持つ特任教員が在籍しています。実習担当の先生方や現場の先生方と連携しながら、学生の皆さんの実習や実地体験活動を支援しています。

教育や保育にかかわる資格を取得するためには、実習は欠かせません。実習は、大学で学んだ知識を現場で生かし、実践する貴重な機会です。子どもとのかかわりはもちろん、事前に一生懸命準備した教材を実際に使ってみて、うまくいったときの喜びや、思うようにいかなかったときの悔しさを経験します。そうした体験の一つ一つが、その後の学びや成長につながっていきます。私自身も、学生の皆さんが実習の前後に教材を準備したり、教育・保育について真剣に考えたりしている姿を見るたびに、自分の学生時代を思い出し、懐かしさを感じることがあります。

また、現場での実地体験活動では、子どもの成長や教育・保育のあり方を学ぶだけでなく、行事や日々の活動の準備、職員同士の連携など、実習とは異なる貴重な経験を得ることができます。教育支援センターでは、こうした経験を振り返る時間を大切にしています。経験を積むだけでなく、それを振り返ることで、大学で得た知識と現場での実践が、少しずつ結びついていくのを実感できると思います。

私は長年、現場で学生を受け入れる立場にありましたが、現在は大学から学生を送り出す立場となりました。そのなかで、大学と現場それぞれの役割の重要性、そして両者をつなぐ教育支援センターの存在を、改めて強く感じています。

教育支援センターは、大学と現場をつなぐ汽水域のような存在ではないかと思っています。慣れ親しんだ川から大海へと旅立つ魚たちが、不安を抱えながらも汽水域で力を蓄えるように、学生の皆さんも在学中に必要な経験を積み重ね、この場所で成長していけるよう願っています。

そして、教育支援センターは、卒業までの間、自分の考えや思いを語り合う場でもあります。学年が進むにつれて、実習や活動だけではない語り合いの機会も増えていきます。皆さんが教育・保育の専門職として、また社会人として大きく成長していくことを心から願い、卒業後も、現場で悩んだときや初心を思い出したいときに、ふと立ち寄りたくなるような、そんな存在であり続けたいと思っています。

いつでも気軽に教育支援センターを訪れてください。